

関係者各位

スーパー耐久シリーズ Rd. 7 FUJI 戦レース報告



■ レース活動

11月15日(土) 予選 コースコンディション：ドライ

11月16日(日) 決勝 コースコンディション：ドライ

11月15日～16日、スーパー耐久2025 Rd. 7 富士戦4時間レースが開催された。今シーズンの最終戦となる今大会は、これまで搭載された重量の3分の1が減量され、獲得ポイントは1.5倍で加算される。岡山戦終了時点でのシリーズランキングは26号車が3位、25号車が4位。2位のチームとは0.5ポイント差という非常に僅差の中で、シリーズ2位をかけて争うレースとなった。

今大会のBドライバーは25号車を松田選手が、26号車を富田選手が担当するベーシックなラインナップだった。予選レースでは26号車は大塚選手と富田選手が安定した速さを見せクラス2位となった。一方25号車はBドライバー予選の最中、車両トラブルにより車両がコース上でストップ。アタックをすることが出来ずに予選終了の時間を迎え、クラス11位となった。尚、メカニックの素早い作業によりCドライバー予選では問題なく車両を走らせた。

決勝レースは、25号車は名取選手が担当し総合32番手からのスタート、26号車は富田選手が担当し総合14番手からスタートした。

26号車は、レース開始直後の混雑による接触でタイヤがバーストしてしまうトラブルが発生。緊急ピットインによりタイヤとドライバーを交代。また接触によるドライブスルーペナルティを受け順位を落としてしまう。一方25号車は名取選手が他を圧倒する速さで複数台を追い越し遂にクラストップに浮上、田中選手へと繋いだ。好調に見えた25号車だったが、この後に続く2度のドライバー交代にて度重なる車両トラブルが発生。

思うようなレース運びが出来ずにクラス10位でチェッカーを受けた。レース開始直後に順位を落とした26号車は大塚選手がプロドライバーに引けを取らないスピードで走行を重ね、篠原選手に交代。着実に順位を上げながら最終ドライバーの富田選手へと繋ぎ、クラス5位でチェッカーを受けた。

この結果を受け、26号車がシリーズランキング2位表彰台を獲得。シーズンを通して安定した速さを見せ続け強さを確固たるものにした。

TEAM ZEROONE 発足から4年目を迎えた今シーズン、開幕もてぎ戦では1-2フィニッシュを飾り、目標としていた24時間レースの優勝を25号車が達成、岡山戦では26号車が2度目の優勝を手にするなど、チームとしても「モータースポーツは人を育てる」という活動指針を大きく体現したシーズンとなった。競合の多いZクラスの中で、チーム一丸となりこのような戦績を収めることが出来たのは、日頃より温かなサポートをしてくださるスポンサー様や関係者様、ファンの皆さんのおかげです。心より感謝いたします。



■日産メカニックチャレンジ活動

1. ピット活動

Rd7 富士戦は日産販売会社のメカニック (TS) 8 名、日産愛知自動車大学校学生 10 名が参加した。TS はレースウィークの水曜日からサーキット入りし、設営からチームに合流した。今回も TS のモチベーションはとて高く、「せっかく店長が行かせてくれたので、必ず何かを持ち帰ります！」と熱い想いを述べた TS もいた。また、10 名の学生は 7 名が 1 年生であったが、3 名の 3 年生に負けず、積極的に取り組んでいた。途中、ドライブシャフト交換、デフ着脱などの作業にも学生、TS が作業出来るよう、チームのプロメカ達がサポートしていた。待ちの姿勢では何の作業も出来ない、自分から前に出て作業するよう、初日のオリエンテーションで伝えたことを忠実に実現している姿が見受けられた。これらの内容は Z NISMO GT4 が市販車に近い事から実現している。これからも「人財育成」の視点でこの活動を進めていきたい。

2. ドライバー交流会

レースウィーク木曜日にドライバーと学生・TSの交流会を行った。学生からは積極的に質問が出て、「レース前のルーティーンは?」「得意なサーキットは?」など普段聞くことの出来ない質問をしてドライバーを知ることで交流を深めていた。また、サーキット走行経験のあるTSからは「クラッシュなどの後にそのトラウマを払拭するにはどうしたら良いか」など真剣な質問もあり、ドライバーも自身の経験を踏まえアドバイスしていた。

3. チーム首脳陣との勉強会

今シーズンから始めている企画を今回も実施。レース活動、S耐について学生、TSが事前に質問事項を準備し、ゼロワン柳田監督、浅野技術統括、吉田チーフエンジニアが解説を行った。「2台のZはセッティングを変えているのか?」という質問に対し、「これは大切な戦略なので他の人には口外しないように」、との注意の上浅野氏、吉田氏から説明があった。チームメンバーならではの重要な情報を得て学生、TSはとても興味深く聞き入っていた。教育活動として「問題意識を持ってレースに参加し、その場で解決する」、というサイクルをこれからも回していきたいと考える。

4. マックメカニクスツールズ特別講習会

恒例のマックメカニクスツールズの特別講習会を実施。日頃あまり意識せずに使っている様々な工具の機能や、正しい使い方について講義が行われた。工具本来の性能を発揮するための使い方については初めて知る内容も多かったようで、講義終了後も質問が絶えなかった。

5. コース見学

富士スピードウェイの協力を得て、マイクロバスによるコース周回を行った。普段サーキットサファリを担当されるスタッフに同乗いただき、コースの様々な場面で解説が行っていただいた。特に第一コーナーは時速300km近い速度から一気に減速する場所だが、思ったよりコース幅が狭い事を実際にコースに降りて体感することが出来たことはとても有意義であった。

6. ブリヂストンタイヤサービス見学

レースウィーク土曜日に学生とTSがタイヤサービステントを見学させていただいた。実際の作業の様子を見ながら丁寧にご説明いただき、学生たちも興味津々で見入っていた。質疑応答の時間ではレースのタイヤに関する質問はもちろん、タイヤ交換機材の価格を聞いたり、学生ならではの質問で盛り上がっていた。



■ゲストエリア

今回は3F クリスタルテラスをゲストエリアとしてご用意し、お客さまのおもてなしを行った。日産販売会社のゲスト約 60 名、ゼロワンパートナー企業のゲスト約 30 名が来場された。決勝日の朝、柳田監督、河野代表が挨拶と決勝に向けた意気込みをゲストの前で伝えた。現在、厳しい状況にある日産であるが、日産の財産であるモータースポーツを活用し現場を活気づけたい、そのため全員がチームとなって目標に向かって進もう！と参加者全員で気持ちを一つにした。その後、参加した7社8名のTSがコメントを述べた。TSからは日頃の業務とは違った環境の中、作業のスピード、正確性が勉強になった、この経験を今後の業務に活かしたい、などのコメントがあった。



■最後に

2025年シーズン、皆さまのご支援もあり無事にシーズンを終えることができました。本当にありがとうございました。TEAM ZEROONEは「モータースポーツは人を育てる」をモットーにこれからも活動を強化して参ります。引き続きのご支援よろしくお願いたします。

以上
TEAM ZEROONE